

第34期 東京都青少年問題協議会
第4回若者部会

令和6年10月30日（水曜日）
午後3時30分～午後5時30分
第一本庁舎34階北塔 34A会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 事務局説明
- 3 事務局連絡
- 4 閉 会

様々な若者の声を拾う場所

- ・ 聴くテーマによって、出向く場所を変えていくとよいのでは。
- ・ 課題に応じて、様々な支援団体が運営する場所にヒアリングしてほしい。
- ・ 京都市の若者支援総合センターのように、トラックでパンを配りながら、**移動型で様々な場所に行って意見を聴く**という方法もあるかもしれない。
- ・ 都心や多摩など、場所の設定方法に**地域的な観点**もあるだろう。
- ・ **相談窓口でどうやって若者の声を聴くか**というのも、一つ観点として入れられるといい。
- ・ **支援団体がそれぞれ協力・繋がり合えるプラットフォーム**（フォーラム型組織）をつくり、そこで協力をお願いするのはどうか。

声の聴き方

- ・ 「意見を集めるために若者を集める」よりも「**若者が集まっているところに自分たちが出向く**」ことが重要。
- ・ 若者と信頼関係ができて**いる支援団体と連携しながら**進めていく。
- ・ **都の職員もヒアリングの場に同席**することで、「こういう人たちに声を届ければいいんだ」という意味になる。
- ・ ネットワーク会議など、何らかの形で**意見の聴き方をブラッシュアップ**していく考え方も必要。
- ・ できるだけ**仕事感を出さず**に来て欲しい。スーツは着ずに私服で。
- ・ 例えば、その日ごとに聴くテーマを決めて居場所を開放し、当事者から雑談を通じて不満や悩みを伺う。その上で、改善方法や行政に求めることを聴くなど、**身近な部分から聴いていく流れ**が重要。

声を聴くためのスキル

- ・ **行政側の価値観等を出さず、主義主張もあまり出さず、本当にただ話を聴ける人**というのが**結構大事**になる。支援者だと大体そのような資質があるのではないかと思うので、何かしらそういう支援に長けたような人、ある程度きちんと意見を拾えるようなスキルがある人が聴くべき。
- ・ 何年間か、そのような**若者に関わった経験が重要**。その上で、**スキルを身につけてから現場に行ってもら**うような研修があったほうがいい。

困難を抱える若者から意見を聴取していくための仕組みに対する意見

若者の声を聴くための支援団体について

- ・ 課題や困難性、困りごとの種別によって、しっかり網羅していくことが必要。この課題はどこの団体があるのか、リサーチや紹介で網羅していく。そこに対してスーパーバイズがあればよい。
- ・ スーパーバイズは、就労支援やヤングケアラー、若年女性、生活困窮など、大きいカテゴリーが若者支援分野にあるため、そのカテゴリーで代表する団体にメンバーとして入ってもらえれば、担保できる。
- ・ 全体の方針をスーパーバイズする専門団体は確実に必要。

フィードバックの充実等

- ・ 実際に「自分の意見がどう反映されたのか」というフィードバックをいかに充実させるかが重要。
- ・ 若者支援施策の数が足りていない。今の施策に穴が多いという点を考えると、意見を聴き、どこに穴があるのか特定することに意義がある。

広報

- ・ 若者が、広告などで都のこうした取組を知る機会が多い方がよい。

契約

- ・ 進行管理のみコンサルが担い、意見聴取の部分は複数の支援団体が行う。または、これをパッケージにしてもよい。
- ・ 若者が審査員側にいる、ということもあり得るのでは。

意見聴取の対価

- ・ 支援団体に対してお金を出し、その代わり声を拾いにくい若者たちから声を聴けるような座組を支援団体がつくることや、例えば、団体の予算の中で、協力した若者にピザを用意するなどの工夫があってもいい。
- ・ 実費弁償はあってしかるべきと思うが、民主主義の担い手を育成するという考え方に則ったとき、変に対価が発生してしまうことに違和感もある。

困難を抱える若者から意見を聴取していくための仕組みに対する意見

オンライン上で広く聴く

- ・ 匿名であることが重要だと思うが、SNS等で若者を集めた場合、**本当に困っている都内の若者なのかどうか**担保できない。そうした意見を施策に反映していいのか疑問。
- ・ 困難な若者の声を聴く際、**広くというアプローチをとることが果たして良いのか**、今一度考えたほうがいい。もっと**狭く深く拾う方法もあるのではないか**。
- ・ **訪問型をもっと厚みを持たせるというやり方もあるかもしれない**。深い構造が理解できないと、そこから施策反映していくということが表層的になってしまう可能性もある。

ユーチューバーの活用

- ・ オンライン上のユーチューバー界隈には、**様々なところに若者が生息している**と思うが、**それがどこなのか、中々見当がつかない**。
- ・ ユーチューバーは、**視聴者層もかなり偏りがある**と考えられ、ベストなのかは疑問。
- ・ YouTubeの活用という選択肢は、**考慮から外した方がよいか**。

ポイント

- ◎ 以下の5つのテーマについて、若者団体の代表、そして「いち若者」として意見を聴取
 - 子育てしやすい東京の実現
 - 若者の声を聴き、あらゆる若者の成長を社会全体で応援
 - 世界に羽ばたく若者の育成
 - 若者たちがポジティブに働くことができる社会の実現
 - 誰もが自分らしく生きるインクルーシブシティ東京の実現
- ◎ これらのテーマに加え、2050年代の東京の姿についてもヒアリング
- ◎ 聴取した意見は、庁内にフィードバックし施策の強化につなげるほか、新たな戦略の策定にも活用

①「子育てしやすい東京の実現」に関する主な意見

- ✓ 都の経済的な支援は充実してきたため、保護者の時間的余裕を生み出す取組が必要。例えば、都立公園での公園デビューを地域でサポートしてはどうか。子供にとって公園が身近になることは、居場所づくりにもなる
- ✓ 障害を持つ子供の親は、学校との打合せの機会が多く、仕事との両立が困難と聞いた。より柔軟な働き方を整え、保護者をサポートしていく必要がある
- ✓ 「子育て支援」という言葉に、漠然とした違和感。「子育て」というと、親側に視点が寄り過ぎていないか。自治体の支援は親に向けての施策になっていて、本当に子供の権利を保障する施策になっているか改めて点検する必要

第3回若者部会における意見交換の概要

②「若者の声を聴き、あらゆる若者の成長を社会全体で応援」に関する主な意見

- ✓ 支援の現場で活動している側としては、「**成長支援**」以前に「**命を守る**」も必要な取組。孤独・孤立は深刻な課題であり、特に困難を抱える若者の声を拾うことに関し、しっかり取り組む姿勢を示して欲しい
- ✓ 若者がいかに「頼れる大人」に出会えるかが重要。つながることができる**大人がライフステージで分断**されてしまう点や、本人からの相談があった時にしかつながることができない点が課題。**フランスのエデュケーター**という取組は参考になるのでは
- ✓ 若者が集まりやすい様々なバリエーションの居場所的な空間を整備して、そこでキャッチした若者を、時間かけて個別に対応することが効果的
- ✓ 重点政策方針を読んで感じたが、「**子供の権利**」という考え方が欠如しているのでは。「子供の権利」という前提があるかないかで、政策の方向性は大きく変わってくる。ソウル市の「**ソウル子供権利章典**」も参考にしては。「子供・若者の権利」というと、ヨーロッパが先進的だったが、今では隣の韓国でも動いている状況
- ✓ 政策のPDCAを回していく中で、**子供・若者の意見**を聴いていくことが必要

③「世界に羽ばたく若者の育成」に関する主な意見

- ✓ 本人の置かれた状況に関わらず、様々な**体験活動**に参加できることが重要
- ✓ 重点政策方針の記載は、重要な要素ばかりだが、「意識高い系」向けという印象もある。様々なチャレンジをしている若者がいる一方で、地道に学校に通っているだけ、という人も多い。一人ひとりがわくわくする**成功体験**を少しずつ積み重ねていくだけで、驚くような成長を遂げることも。こうした**活動が継続**されるよう、行政がサポートしていくことが重要

第3回若者部会における意見交換の概要

④「若者たちがポジティブに働くことができる社会の実現」に関する主な意見

- ✓ 高卒就活市場も大きく変わる中で、一人一社制の慣習は依然残り、ミスマッチによる離職率の高さを解消できないでいる
- ✓ 我々支援団体が相手をしている若者は、そもそも働くこと自体にポジティブになれないでいる。企業に育成の余力がなくなる中で、そうした若者がどのようにキャリアを積んでいけばいいのか、そして引きこもり等、道を踏み外し、経歴にブランクが生じたときにどうしたら就職できるかなどを明らかにしてあげることが重要
- ✓ オンラインでの働き方が定着する中で、これまで居場所の一つであった職場が、居場所でなくなるケースも生じているのでは

⑤「誰もが自分らしく生きるインクルーシブシティ東京の実現」に関する主な意見

- ✓ 地域の中などで自分の役割を見出すことが、すごく必要。地域の畑づくりの活動などで、体力のある若者が周囲から重宝されるなど、本人が思いもよらないところで、有用感を抱くケースもある。学区ごとなど、身近な地域での活動の機会を作ることが重要
- ✓ 相談所や支援機関が現在多様化しており、どこに相談すればいいかわからないという問題が存在する。様々な悩みや課題に対応できる窓口を設けることが重要
- ✓ SNSで他人の生活が簡単に垣間見える世界となったことで、自己肯定感の低い若者が多くなったのでは
- ✓ たとえ負の経験であったとしても、その苦しんだ経験が、他の人にとって貴重な情報源となることも。そうした貴重性に気付く機会を作っていくことが重要。ただし、自己開示が押し付けられることはあってはいけない
- ✓ 体験機会が多ければ多いほど、自己肯定感が上がるのでは。きっかけや目的を問わず、誰もが体験できる機会を設けていくべき

第3回若者部会における意見交換の概要

「2050年代の東京」に関する主な意見

- ✓ テクノロジーが変化する中で、リアルなつながりが更に見直されるのでは。現在の**家族**や**世帯**というコミュニティも**限界**を迎え、人間がどう生きていくか、別の形が生まれるのではないか
- ✓ 仕事と家庭、という二項対立ではなく、「**ポジティブに働く**」の**先の世界**が見えていてほしい。義務的な労働はテクノロジーに任せ、制約なく好きなことで暮らしていけるとよい
- ✓ 各地域に**信頼できる場**があり、その場が**ハブ**となっているとよい
- ✓ 「勝ち組」「負け組」のような所得層で分断される社会ではなく、置かれた状況に関わらず、様々な人と関われる社会であってほしい。義務的なコミュニティではなく、**緩やかなつながりのコミュニティ**となるのでは
- ✓ 今の小中学生は塾や習い事で忙しそうで、もっとのびのびと生きてほしい。テクノロジーの変化で、学校に求められることが勉強ではなく、様々な活動や、はたまたビジネス体験となるなど、**学校の在り方も変わるのでは**
- ✓ 子供・若者が当たり前**に審議会の委員**となっているなど、**意思決定に関われる社会**となってほしい

その他全体に関する意見

- ✓ これまで動きのなかった「若者支援」がついに動き出していると実感している。重点政策方針などで、**都としてのメッセージや姿勢が明確**になるとよい

ポイント

- ◎ これまで3回開催した若者部会で、以下について各委員から意見を聴取
 - ① 困難を抱える若者から意見を聴くための仕組み
 - ② 新たな戦略の策定に向けた、必要な視点や取り組むべき方向性
- ◎ 部会において「行政が若者たちから直接意見を聴くことも必要」との意見があり、部会長からも委員以外の若者からの意見聴取を検討するよう発言
- ◎ 幅広く若者の意見を聴取する観点から、若い世代の学びや生活などを支援する以下の団体の代表等に対し追加でヒアリングを実施
- ◎ 今回の部会内で追加ヒアリングの内容を含めた議論をとりまとめ、子供・若者計画の改定等につなげていく

ヒアリング団体	主な事業内容
NPO法人 おりがみ	ボランティア活動の啓発、普及、育成等を通し、多くの市民へ社会参画の機会を提供
特定非営利活動法人 だーちゃらぼ	フリースクール、若者の居場所の運営、地域の方々も参加できるイベントや子ども支援を行う団体へのコンサルテーション
一般社団法人 日本若者協議会	若者（39歳以下）の意見集約、政党・政府に対して政策提言
一般社団法人 ユースキャリア教育機構	U29のこれからの日本を支える若者（ユース）のためのキャリア教育支援
特定非営利活動法人 Light Ring.	ゲートキーパー（支え手）の育成・支援を通して自殺者の減少と、孤独の緩和を目指す

若者団体に対する追加ヒアリングについて

NPO法人 おりがみ

< ボランティアの活性化 >

- ✓ 当団体は「つくるボランティア」をキーワードに、自分たちがやりたいボランティアのプログラムを自分たちで企画してつくっていくところを推し進めている。**ボランティアが活性化するポイントは、楽しみながら活躍できるか**だと思う。
- ✓ ボランティア人口を増やすには、東京マラソンなど楽しいボランティアとして有名なものがあるので、**ポジティブな活動情報が若者たちに広がっていくといい**のではないかと。
- ✓ 文化系やスポーツ系、イベント系など、**色々な幅広いボランティアがジャンルとして平行に扱われていくといい**。
- ✓ ボランティアは**自分を殺して人に尽くすものから変わってきている**。いろいろな活動にボランティアと付けて、**ボランティア自体がいいものだよ**ねというムーブメントをつくっていくことが大事。
- ✓ 会社に入ると精神的忙しさにやられる人もいたが、企画を手伝ってもらったら、時間的により忙しくなったはずなのに元気になる。**ボランティアは仕事のことを忘れる、サードプレイスの役割も果たしている**。

< 団体運営で望むこと >

- ✓ NPOの走り出しで**人を雇うリスクを取れない**。活動をスケールアップさせようとする、事業を取るか、人を取るかの天秤に。NPOも飛び抜けたところは寄付も集まっているが、**最初のスモールスタートの部分で苦心**している。
- ✓ NPOへの助成金や補助金について、**事業費助成だけだと活動を延命されているだけの感覚**がある。
- ✓ **学生ボランティア団体が苦勞するのが信頼性獲得**。東京都からの後援名義だったり、都のホームページで紹介してもらったりすれば、頑張っている学生団体は非常に喜ぶと思う。
- ✓ **行政への申請が難しく**、後援名義の取得など学生からすると申し込みや手続きの段階で諦めてしまう。**学生や若者に対してはある種の「ゆるさ」があってもよい**のでは。

若者団体に対する追加ヒアリングについて

特定非営利活動法人 だーちゃらぼ

<居場所（だちゃカフェ）について>

- ✓ ありのままの自分で一緒にいてくれる人が欲しい若者、この場所を自分の部屋のように感じている若者等が利用。
- ✓ 「こういう活動をします」という「Do」を打ち出しているだけで、「こういう方向け」といった**支援のカテゴリーを明確にしていない**。このような**カテゴライズされない中間層向けの居場所をもっと増やしていくべき**ではないか。
- ✓ 自分が一番苦しくて**助けを求めた時に、誰かが助けてくれた経験がないと、二度と人を頼ってくれない**。人を信頼するという素地がなくなってしまう。どのタイミングでも**助けを求めたら、ぴったり合うような支援がある**といい。

<子供・若者について>

- ✓ 子供たちはYouTube等でなんでも知っている、なんとなくこういうものみたいな概念はあるが、**実態を求めているし、リアルに感じたいという欲求**がある。そういう機会がもっと子供たちに与えられたらいい。
- ✓ 人生の目標を立て、実際に何をしていくかを自分では組み立てられないと思うので、それを相談できたり、今これに興味持っているんだ、といった話のできる相手がいたりすることも大事。
- ✓ 今の若者は、もやもやして、なんだか生きづらいとか、好きな人が見つからない、誰といても居心地が悪いと感じている印象。**もっと自分が役に立てた実感を得たい、と思っているのではないか**。

<団体運営で望むこと>

- ✓ 大学生のボランティアで何とか回っており、**NPOの補助金の対象経費が広がると有難い**。
- ✓ 豊島区と交流があるため繋がりができて助かっているが、**区外の支援団体とは連携が取れておらず、リソースを全く知らない**。区外の利用者もいるため、せめて都内は知っておきたい。
- ✓ **他の支援団体との連携により、支援者側も「一人で見ていくわけではない」と安心**できるが、そうした連携は一人ひとりの努力によって成り立っている現状にあるため、連携という観点からの支援があったらいい。

若者団体に対する追加ヒアリングについて

一般社団法人 日本若者協議会

< 権利の主体である子供・若者 >

- ✓ 「権利の主体」といった時に、意見聴取だけでなく、**子供・若者が決定に関与していくことが極めて重要。**
- ✓ **自己決定権**というキーワードに入れるだけでも、受け手の印象は違ってくると思う。
- ✓ 全ての子供・若者を対象にした「こども基本法」ができた意味合いは大きく、**皆が使えるユニバーサルな施策**を整えていく観点が必要。

< 意見聴取について >

- ✓ 自分たちの世代でどのような課題があるか、どのような新しいソリューションが求められているかを**議論して提言を出すといった機会が必要。**個々の若者が**その場の感覚だけで答えると、ソリューションが抽出できない。**
- ✓ 意見聴取は個人単位だと意見がバラバラとなるため、**若者を束ねる団体の声も聴くべき。**

< 海外における子供・若者の自己決定権 >

- ✓ 日常的に過ごすコミュニティで**自分たちの声が聴かれた経験がないと、大きなことを聴かれても意見を言えない。**
- ✓ スウェーデンやデンマークの幼稚園では、今日はどんな遊びをするかなども**子供たちで決めている。**小学校では子供も入った給食協議会が設置。中学校だと学校の設備も**皆で話し合っ**て決めている。
- ✓ 中学・高校になると、若者議会、ユースカウンスルが設置、**自分たちの代表を自分たちで選んでいる。**世代代表として意識が芽生え、学校で同世代の声を聞いたり、困難を抱える人たちにヒアリングに行ったりしている。
- ✓ ヨーロッパでは**自己決定権を子供の権利の中で最も重視。**決めたことが仮に大人から見て最善でなくても子供たちが**自分で決定しているから責任を持って進める。**失敗しても**学べるし、軌道修正も自分でできる。**
- ✓ 日本の場合、大人が手前でどんどん砂利を除いてしまい、主導してしまう。そのため**逆に失敗もできなくなって、自分の中で価値観を形成しにくいし、何がいいのか、何が悪いのか、トレーニングとして積めない。**

若者団体に対する追加ヒアリングについて

一般社団法人 ユースキャリア教育機構

< 団体に来る若者の印象について >

- ✓ **自分がこういうことしたいと思える・言える子の人数は年々減っている**と実感。今の子は画一的で、マイルド化が進んでおり、**社会に合わせていく中で、やりたいこと見失っていく**という傾向は強い印象。

< 現在の教育について >

- ✓ 早い段階から親にお金をかけた教育を受けさせてもらった以上、**親に注いでもらった教育分を回収できる会社に就職しなければ、**という気持ちの子もいる。**親の期待に応える「間違えない選択」**を考えキャリアを描いている。
- ✓ 体験活動を通じて、動機はさておき、自分のやりたいことを推進するため、**社会に貢献する視点が大事**ということを学んでもらったが、今の教育フォーマットではそうした学びを評価できず、評価する評価者もない状況。
- ✓ 学生のやりたいことではなく、SDGsなど、人類のゴールに重きを置かれてしまって、**個人のゴールをあまり考えられない**子はどうしても増えている印象。

< 若者と接する中で思った意見 >

- ✓ ちょっと先輩ぐらいから学んでいくことが大事。近い年齢層の先輩方の方が、イメージがつきやすいようだ。
- ✓ 行政には**徹底的に尖ったものを作る組織体・予算組みという横軸がある**といいのでは。
- ✓ 今できないことを取っ払った場所や、尖ったものを伸ばすためのルール改正ができないかと思っている。**尖った人材が意図的に生まれるような特区・許される制度づくり**をお願いできたら嬉しい。
- ✓ ハラスメントとかコンプライアンスの問題で削ってしまった箇所を補う意味で、シェアハウスでみんなと必死に作業する時間やじっくり星を見る時間を取るなど、そういうことを都にも一緒にやっていただけないかなと思う。

若者団体に対する追加ヒアリングについて

特定非営利活動法人 Light Ring.

< 悩みを受け止める友人等支え手の子供たちへの支援 >

- ✓ ゲートキーパーは自殺念慮者に限らず**ひとり親家庭、いじめなどに悩む身近な友達もサポート。支え手としての子供たちはヤングケアラーに近い状況**にあり、介護の有無等によらず、ヤングケアラーと同様にサポートする必要。
- ✓ 当事者は普段接していない子に相談することが多い。相談された側は、適当にもできず責任感を持って聞いており、**支え手として相手の悩みを自分ごとに捉えてしまい、相手の悩みと自分自身の支える上での悩みを二重に抱えている。支え手としての知識や技術がなく**、夜中に悩みを聞いて、次の朝学校に行けないといったケースも。
- ✓ **気付いてどうしていいかわからない、自分だけで抱え込んで辛くなっているというのが、子供の支え手に多い特徴。**支え手が専門家に相談できる機会をつくるなど、当団体に限らず多くの場所で「支え手の負荷を受け止められる場所」があるといい。
- ✓ 問題を抱えている当事者の家族は子どもの悩みを受け止める心の余裕がないケースが多いため、家族への支援のみならず、その**周囲の人がクラスメイトやネット上の友人など誰でも受け止められるような支援も必要**ではないか。
- ✓ シンガポールのように学年に一人ずつコミュニケーションリーダーがいて、そのリーダーが集まって相談の乗り方や専門家の継ぎ方を検討するような、「コミュニケーションの生徒会」を子供たち同士で形成できるといい。

< 団体運営で望むこと >

- ✓ 自治体職員や民間企業の社員、NPO職員同士の**人材出向の促進ができないか。**この出向によって他分野との横の繋がりが**できる。**そういう仕組みがあるとNPOの活性化にもなる。
- ✓ 40代以上の支え手からの相談が増えているため、協力団体がいるといい。
- ✓ 2、3年の期間で人を採用しようとしても、来年助成金が取れるか分からない。**複数年の助成制度があるとありがたい。**
- ✓ **自分たちのSNSだけだと広がりがいい。広報に協力いただけるとありがたい。**

若者団体に対する追加ヒアリングについて

< 未来の東京について >

NPO法人 おりがみ

- ✓ 2050年には、**日常に面白い体験とか、自分の知らない発見がいっぱい溢れている社会**になってもらいたい。
- ✓ ボランティアに色んな体験機会が溢れている状況になれば、環境系に興味があると思っていたけど、実はスポーツ系に興味があったと気付ける。**気付きの機会が日常生活の中に溢れている社会**になってほしい。

特定非営利活動法人 だーちゃらぼ

- ✓ 明るい未来と言ったときに、やはり**安心して人と関わり、様々な価値観に触れて、挑戦できて、失敗もできて、人って悪くないのだ**と思えるような環境が必要

一般社団法人 日本若者協議会

- ✓ 自分が声を上げて社会を変えられるといった数値や、自国の将来は明るいといった数値が極めて重要。やはり**将来が明るくないと、どうしても生活に保守的**になって、リスクヘッジをしまいチャレンジしづらくなる。
- ✓ どのような境遇であれ子供がきちんと支援を受けられ、あらゆる子供の選択肢を保障することが必要。

一般社団法人ユースキャリア教育機構

- ✓ **夢を持てる国**にしておきたい。人口統計で見ると2050年は、東京も人口が減り始めているタイミングで、**東京都が子供を育てる最後の砦みたいになっているのでは**。何かしら夢を持てる形にできないかと願っている。
- ✓ 今は若者に東京は夢があるぞという話をしている。今後、2050年に夢を持てるまちをどうやって作るのかと危惧。

特定非営利活動法人 Light Ring.

- ✓ 孤独・孤立が増え、自殺も過去最大という中、安心できる関係がない子供たちが多い。**コミュニティのような安心できる関係性が保証される未来**であって欲しい。
- ✓ 家庭を持ちたいと思った時、**自分が離れた時に法人が保てるかとの怖さ**がある。**起業した時に会社を続けられる支援があると、女性がもっと気軽に起業しやすくなる。起業家も一人にさせない取組**があるといい。

第34期東京都青少年問題協議会 若者部会名簿

【若者部会】

(敬称略)

氏 名	所 属 等
荒 井 佑 介	特定非営利活動法人サンカクシャ代表理事
大 橋 暉 弘	認定特定非営利活動法人育て上げネット
小 奈 悠 馬	特定非営利活動法人青少年自立援助センター
土 肥 潤 也	NPO法人わかもののまち・株式会社C&Yパートナーズ
西 山 なつ美	多摩市若者会議
與那覇 千 夏	調布市子ども生活部児童青少年課

【事務局】

氏 名	所 属 等
竹 迫 宜 哉	生活文化スポーツ局生活安全担当局長
村 上 章	生活文化スポーツ局若年支援担当部長
山 本 理	生活文化スポーツ局都民安全推進部若年支援課長
栃 折 晃 平	政策企画局計画調整部計画調整担当課長